

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110115799		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームどんぐり		
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1676-3		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年2月10日	外部評価確定日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の健康管理については、関連医療機関との連携により万全を期しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念の中に「能力に応じた自立支援」があり、職員は日常の動作をリハビリ運動と捉え、目覚しい回復は見え難くても現状を維持できるよう努めている。過度な介助を避け、出来るだけ入居者の能力を引き出そうとしている姿勢にもそれが伺える。また、「明るく家庭的な雰囲気」とも掲げているが、職員と入居者の会話やケアの様子にそれが見て取れる。事業所は、終末期にも対応すべく体制を整えており、普段の生活においても母体の病院が隣接していることは心強い。
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	理念は、開所時に理事長や当時の職員達で作上げたものである。同法人施設で同じ理念を掲げるのではなく、事業所独自に想いを表している。所内数箇所に掲示しており意識付けを計っている。日々のケアを行う職員の姿勢にはそれが活かされているのが伺える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。町内で開催される夏祭りにも参加している。	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。町内で開催される夏祭りにも参加している。	自治会への加入はないが、地域の一員としての役割は自覚している。近くに同法人の施設もあることから、合同で秋祭りなどを開催する折には、地域住民も招き交流に努めている。また、運営推進会議を活かし、そのメンバーでもある地域役員の方を通じて事業所への理解と支援が得られるよう努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で認知症の家族の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。	在宅で認知症の家族の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議は外部の方の目が入る貴重な機会であることを踏まえ、地域との繋がりに役立つよう努めている。メンバーの出席率は高く、家族も必ず1名は出席している。事業所からの報告のみではなく、出席者にとっても有意義な集まりとなるよう工夫している。例えば、認知症を様々な角度から捉え、それを会議に盛り込んでいるため、回数を重ねる度に認知症への理解を深めることが出来る。業務に携わる者だからこそ伝えられる内容との自負もあり、地域役員から地域住民へと広がっていくことも願っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	運営推進会議のメンバーでもあることから日頃から顔なじみであり実直に対応してもらえる関係が築けている。相談事はまず電話で行うことが多いが、場合によっては直接出向くこともある。空室に対してのニーズ紹介等を受けることもあり、連携が図られている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。	年1回は必ず、法人全体が事業所独自で研修を行っている。職員は、身体拘束の内容とその弊害も理解している。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーも設置しておらず、職員の見守りや連携により、安全で自由な暮らしが支援されている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	家族が来所の際には、何でも気軽に話してもらえるよう努めている。日頃から家族には、「管理者に言い難いならば是非職員へ。」と伝え、出された意見は前向きに活かす体制がある。来所が少ない家族へは、近況や容態の連絡、衣服の追加や衣替え等をお願いする電話を掛け、会話の機会を設けている。また、事業所の外にも苦情や相談の窓口があることは、書類にも明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	月1回のどんぐり会議は出来る限り非番者も参加し、2ユニット合同で開いている。限られた時間を有効に進めるため、議題は予め周知され、場合によっては意見集約まで行っておくこともある。職員は、自由に発言をし、そこから入居者のケアへ取り込む意見もある。使い易いケア用品を職員が紹介することもあり、柔軟に対応している。管理者は、日頃から職員と同じ目線に立つことを心掛け、風通しの良い職場となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せするなどしている。	職員の努力や実績により、仕事を任せなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者の得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者の得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生月等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生月等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらこともある。	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらこともある。	入居までの人間関係等の把握をする際には、担当ケアマネージャーやデイサービス等のスタッフにも話を聞いている。入居者の中には同法人施設を利用の方もいたため、そこからの情報は入居後の支援に役立てている。家族の協力を得て馴染みの理美容院へ行くこともある。電話を掛けたいと希望があれば、間に入り入居者の想いを伝え取り次いでいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	日々の関わりの中で、入居者がふと洩らす思いを見逃さないよう努めている。特に入浴中などリラックスした状態では、想いを話してくれることもあり、大切にしている。家族との来所時の会話も含め、日々の気付きは申し送りノートや経過記録等に記され、職員間で共有している。また、入居者毎に決められている担当者にも伝えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	本人や家族から聞き取ったことも活かしながら、本人に合った計画を立てている。家族にもサービス担当者会議への出席をお願いし、それが難しい家族へは、来所の折か電話連絡で説明している。家族の希望が多いのは機能回復訓練で、残存能力を活かし現状が維持できるよう日常のケアに配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	事業所の強みは、母体の病院が隣接していることである。入居前のかかりつけ医へ通う入居者もいるが、様々な状況を判断し、協力医への変更を自ら希望するケースもある。職員はその思いごとに対応している。受診に関しても、家族が同行する場合は、日常の様子を医師に正確に伝えるための様式を準備している。また、職員が同行する場合はその結果も当日中に家族に報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為に話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為に話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	これまでに看取りの経験がある。今後も希望があれば、その想いに添う用意がある。入居時に説明を受け、方針を決めていても、本人や家族の想いは容態の変化に応じ揺らぐこともある。事業所はその都度、何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	年2回、防災関連会社のサポートを得ながら職員のみで避難訓練を行っている。すぐ近くに同法人施設もあることから、緊急時には一斉に通報も届き応援に駆けつける手番となっている。職員は、消火器や火災通報装置の使い方も承知している。非常食や水、寒さを凌げる物などは法人全体として用意がある。実際の夜間帯での訓練経験はなく、まず職員だけでもその暗さを体験し避難経路を再確認してみることが検討されている。	

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	理念にも掲げている「人格の尊重」は年長者として敬意を払う職員の姿勢にも表れている。そして、「利用者の立場に立った援助」とも記されており、トイレ等の誘導にしてもさりげないケアを心掛けている。毎月発行されるホーム便りには個人の写真や名前が掲載されるが、入居時に説明を行い承諾を得ている。また、守るべき情報も決して洩らさない意識が徹底されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は個性を大切にした服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。	職員は個性を大切にした服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	献立は、隣接する母体病院の栄養士によって立てられ栄養価も計られている。個々の咀嚼を考慮したり、辛味調節なども細かく対応したものが提供されている。歳を重ねるごとに手伝える事も減っていく入居者ではあるが、出来る事で参加してもらうよう支援している。職員と入居者は同じテーブルで同じものを食べながら、時には傍らで介助も行い、しかし、会話は絶やすことなく和やかなひとときとなっている。誕生日には、お祝い食を用意し、午後のお茶の時間には家族が参加することもある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	排泄チェック表によるパターン把握で細かい対応が出来ている。出来るだけトイレでの排泄を支援したことにより、日中はリハビリパンツ等へ改善した例もある。自分でトイレへ向かう入居者もいるが、職員は自尊心にも配慮したさりげない見守りと適度なケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入浴は、午前中に行うことが多いが、夕方にと希望があればそれも可能である。拒む方には、タイミングをずらしたり、職員を換えたりして試みるが、難しい時には清拭や足浴で対応している。浴室内にも手摺りを付け、床は滑り難い材質を使用している。冬場の脱衣場は、温度管理され、衣服の脱ぎ着も出来るだけ本人に任せながら、職員はさりげない介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の安定を図る場合もある。	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の安定を図る場合もある。	事業所では、外気に触れることが「五感の刺激になる」「睡眠のリズムを整える。」と考えている。そのことから、天候や体調をみながら出来るだけ外へ出てみることも支援している。普段の敷地内を散歩することに加え、年間行事にも挙げられている花見などは、法人の車椅子対応車両を使い数回に分けて出掛けしている。呼びかけにより同行する家族もある。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援を行っており、高額にならない程度のお金を持って頂いている。	買い物支援を行っており、高額にならない程度のお金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	中央にリビングや台所があり、その両側にそれぞれのユニットがある。リビングから両側に延びた廊下沿いに各居室があり、職員の目も届きやすい設計である。廊下には手摺りが付けられ、歩行を妨げる物もなく、天井の明り取りからは自然な明るさが感じられる。本来、居室には金属製ネームプレートがあったが、それを上手く覆う木製の表札に換え、親しみやすくしている。パッチワークで表示しているトイレも同様である。浴室やトイレ等はきれいに掃除され、臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。 入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。 入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室に持ち込む品物には、火気等の危険物以外に制限はしていない。使い慣れた馴染みの物で落ち着いた生活が出来るよう支援している。居室の飾りなどは、家族や担当の職員が手伝っている。また、希望すれば、家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けたまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さに完備している。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けたまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さに完備している。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない